

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の3年目)

1. 研究課題

近現代日本の研究資源に関する基礎的研究

Fundamental research concerning research resources on modern and contemporary Japan

2. 研究代表者氏名

小堀 聡・福家 崇洋

KOBORI, Satoru/FUKE, Takahiro

3. 研究期間

2022年4月-2025年3月(3年目)

4. 研究目的

本研究班の目的は、京都大学人文科学研究所（以下、人文研）を中心とする諸機関に所蔵される、近現代日本の研究資源の整理・保存・公開である。これまで人文研には旧日本部が収集してきた研究資源が存在するほか、近年もみやこの学術資源研究・活用プロジェクトを通じて数多くの研究資源が蓄積されてきた。これらはいまだ整理の途上であるものも存在するが、今後精力的に整理・公開していくことで、共同利用拠点、共同研究拠点としての人文研への積極的な貢献を目指す。あわせて、本研究班には他機関の研究者も積極的に参加してもらうことで、研究資源情報の共有や、整理公開作業の協働化を推し進めたい。これら研究資源の整理と公開は、基礎研究として、今後の人文科学の発展に不可欠であるばかりでなく、人文研の共同研究班のネットワークの増大や扱いうる研究資源の拡大にとっても大きな意味を持つと考えている。

The purpose of this research group is to organize, preserve, and release to the public the research resources on modern and contemporary Japan held by the Institute for Research in Humanities, Kyoto University and other institutions. Until now, Institute for Research in Humanities has had research resources collected by the Japanese Division. In recent years, through the Miyako Academic Resources Research and Utilization Project, a large number of research resources have been accumulated. Although some of these are still in the process of being organized, we aim to actively contribute to the Joint Usage Center and Joint Research Center by organizing and releasing them in the future. In addition, we would like to have researchers from other institutions actively participate in this research group to promote the sharing of research resource information and collaboration in the work of organizing and publishing. The organization and disclosure of these research resources is not only essential

for the future development of the humanities as a basic research field, but also carries significance for the Institute for Research in Humanities through the expansion of a network of joint research groups and the proliferation of research resources.

5. 本年度の研究実施状況

本年度は、いずれも昨年度からの継続として、京都大学内・学外の各種資料のうち、以下の整理を行なった。まず、京都大学内は人文研所蔵岩井会旧蔵資料および京都大学職員組合所蔵資料である。前者は技術補佐員を雇用して資料目録の作成とデジタル化のためのスキャン作業を行った。高度経済成長期に発生した公害などの社会問題が発生する中で市民自身が声をあげて問題解決に取り組んだ軌跡が資料から浮かび上がる。後者については、職組の専従職員・OBの協力も得つつ整理作業を実施することで、人文情報学創新センターが掲げる「市民との協業」にも即した活動を行なった。学内での日常的な組合活動の他、民主主義科学者協会や日本教職員組合など、学外の諸団体にかんする貴重な資料を含むことが明らかになった。

また、学外の資料としては、核融合科学研究所核融合アーカイブ室所蔵「森一久資料」と名古屋大学経済学研究科所蔵「荒木光太郎文書」の整理を実施した。前者については、スリーマイル島原子力発電所事故に関する資料が複数発見されたのが、特に注目される。作成した仮目録は核融合アーカイブ室に提供しており、その後同室で、データの再整理と一般公開に向けた準備を進めている。荒木光太郎文書については、ご遺族の協力によって、写真被写体の特定をかなり進めることができた。目録・資料解説ともに概ね完成したが、2025年2月に追加資料をご寄贈いただいたため、2025年度にはこの整理を行なうことで、資料公開を実現したいと考えている。

6. 本年度の研究実施内容

- 2024-04-16 京都大学職員組合資料の整理と資料所蔵機関との意見交換 発表者 小堀聡
人文科学研究所
- 2024-05-15 京都大学職員組合資料の整理と資料所蔵機関との意見交換 発表者 小堀聡、
福家崇洋、須永哲思 人文科学研究所
- 2024-06-13 京都大学職員組合資料の整理と資料所蔵機関との意見交換 発表者 小堀聡、
福家崇洋、須永哲思 人文科学研究所
- 2024-07-02 森一久資料（核融合科学研究所所蔵）の整理と意見交換 発表者 小堀聡、瀬戸
口明久、喜多川進 人文科学研究所・山梨大学
- 2024-07-03 森一久資料（核融合科学研究所所蔵）についての意見交換 発表者 小堀聡、喜
多川進 人文科学研究所・山梨大学
- 2024-07-12 荒木光太郎・光子文書の写真資料について 発表者 小堀聡 人文科学研究所
- 2024-08-08 京都大学職員組合資料の整理と資料所蔵機関との意見交換 発表者 小堀聡、

福家崇洋、須永哲思 人文科学研究所

2024-09-17 京都大学職員組合資料の整理と資料所蔵機関との意見交換 発表者 福家崇洋、
須永哲思、奥村旅人 人文科学研究所・教育学研究科

2024-10-15 京都大学職員組合資料の整理と資料所蔵機関との意見交換 発表者 小堀聡、
福家崇洋、奥村旅人 人文科学研究所・教育学研究科

2024-12-05 京都大学職員組合資料の整理と資料所蔵機関との意見交換 発表者 小堀聡、
須永哲思 人文科学研究所

2025-01-24 京都大学職員組合資料の整理と資料所蔵機関との意見交換 発表者 福家崇洋、
須永哲思、奥村旅人 人文科学研究所・教育学研究科

2025-02-20 京都大学職員組合資料の整理と資料所蔵機関との意見交換 発表者 小堀聡、
福家崇洋、須永哲思、奥村旅人、岩島史 人文科学研究所・教育学研究科・経
済学研究科

2025-03-19 京都大学職員組合資料の整理と資料所蔵機関との意見交換 発表者 小堀聡、
福家崇洋、須永哲思、奥村旅人 人文科学研究所・教育学研究科

7. 共同研究会に関連した公表実績

本研究班での成果も踏まえつつ、人文研アカデミー2024 シンポジウム「ニューレフトは誰と闘ったのか？——日本管理社会とポスト 70 年の抵抗」を 11 月 30 日に開催した。また、森一久資料の調査結果の一部は、小堀聡「1970 年代日本の原子力政策」（政治経済学・経済史学会秋季学術大会パネル・ディスカッション「現代日本のエネルギー問題：歴史と構造」11 月 2 日）で公表した。

8. 研究班員

所内

小堀聡、福家崇洋、ティル・クナウト、須永哲思

学外

喜多川進(山梨大学生命環境学部)、牧野邦昭(慶應義塾大学経済学部)、佐々木政文(京都先端科学大学人文学部)、立本紘之(法政大学大原社会問題研究所)、黒川伊織(エル・ライブラリー)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
人文研所属 (内女性)	1	4 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	28 (0)	0 (0)	8 (0)	0 (0)	0 (0)
京大内 (人文研を除く) (内女性)	2	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	6 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (0)	0 (0)
国立大学 (内女性)	1	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学 (内女性)	2	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他 ※ (内女性)	1	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	7	9 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	48 (1)	0 (0)	8 (0)	6 (0)	0 (0)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要		団体職員									

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	21		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	2	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	1		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	大原社会問題研究所雑誌	1	2024.4	EV シフトの実態と影響	喜多川進
2	毎日新聞	1	2024.5	電源3法50年「原発」根本からの検証を	小堀聡
3	人文学報	1	2024.6	青空がほしい再訪：高度成長期戸畑の婦人会による反公害運動の道のり	小堀聡
4	人文学報	1	2024.6	戦後歴史学の明暗 渡部徹と社会・労働運動史研究	福家崇洋
5	日本思想史学	1	2024.6	提言 思想史の森で彷徨うために『思想史講義』の試みから	福家崇洋
6	人文学報	1	2024.6	宮崎家所蔵宮崎龍介関係資料目録	福家崇洋
7	人文学報	1	2024.6	新村猛「佐々木時雄弔辞」	福家崇洋

8	人文学報	1	2024.6	京都地方労働組合総評議会（京都総評）関係資料目録	福家崇洋
9	人文学報	1	2024.6	新村猛関係資料目録	奥村旅人， 須永哲思， 福家崇洋， <u>藤野志織</u>
10	人文学報	1	2024.6	京都勤労者学園京都人文学園関係資料目録	<u>奥村旅人</u> ， 須永哲思， 福家崇洋
11	人文学報	1	2024.6	私立各種学校・京都人文学園の歴史―「人文主義の精神に依る教育」のゆくえ―	須永哲思
12	人文学報	1	2024.6	<資料目録 II>吉田九洲穂旧蔵京都人文学園関係資料目録	須永哲思
13	人文学報	1	2024.6	<翻刻資料 II>講義ノート「一般教養(新村猛先生)(6.10 趣意書ニ依ル)」―講義ノート「一般教養(新村猛先生)(6.10 ノ趣意書ニ依ル)」	須永哲思
14	人文学報	1	2024.6	<翻刻資料 III>簿冊「昭和二十一年度 審査合格者作文京都人文学園」	須永哲思
15	鈴木淳・山口輝臣・沼尻晃伸編『日本史の現在 6 近現代 2』	1	2024.7	公害と環境史	小堀聡
16	鈴木淳・山口輝臣・沼尻晃伸編『日本史の現在 6 近現代 2』	1	2024.7	日本における共産主義運動	福家崇洋
17	大阪社会運動協会編『大阪社会労働運動史 第10巻』	1	2024.7	電力・ガス・水道	小堀聡
18	日本教育史研究	1	2024.8	書評 新井浩子『社会教育における生活記録の系譜』を読んで	須永哲思
19	毎日新聞	1	2024.10	新幹線開業 60 年 受益の裏にあった受苦	小堀聡

20	中間派無産政党 機関紙集『日本 労農新聞』『日本 大衆新聞』『全国 大衆新聞』『全国 労農大衆新聞』 別冊	1	2024.11	「中間派」無産政党と機関紙発行 事業	福家崇洋
21	地域史研究	1	2025.1	尼崎市教職員組合文書 一兵庫県 教職員組合尼崎市支部・園田中学 校分会旧蔵簿冊資料にみる、一九 四八年「五・二一スト」一	須永哲思
22	Internacia Pedagogia Revuo	1	2025.1	La Infanoj de la Mondo kaj ties redakta procezo	SUNAGA Satoši
23	企業家研究	1	2025.2	書評 中瀬哲史著『日本の電力シス テムの歴史的分析―脱原発・脱炭 素社会を見据えて―』	小堀聡
24	河上肇記念会会 報	1	2025.3	河上肇と無産政治運動	福家崇洋

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名	国際共著
1	『「秋丸機関」関係資料集成』解説	牧野邦昭	2024.12	不二出版	

12. 博士学位を取得した学生の数

なし

13. 研究成果公表計画および今後の展開等

①「荒木光太郎文書」については、「荒木光太郎文書目録」を刊行し、資料を一般公開する予定である。また、主要資料の筆耕を『人文学報』などに掲載予定。

②京都大学職員組合の所蔵資料については、2025～28年度基盤研究班C班「高等教育機関における教育労働運動の史的研究―京都大学教職員組合を中心に」で調査を継続し、記念誌などの成果にまとめる予定である。